

令和4年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の具体的目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切にする心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する エ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 探究活動をとおして主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 新学習指導要領の趣旨に即した授業改善を図る エ I C Tを積極的に活用した個別最適な学習、協働的な学習を推進する

③ 進路指導の充実

ア 企業研修等を通じて生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る イ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 主権者教育・消費者教育の推進

ア 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る
イ 成年年齢の引き下げに対応し、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する ウ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

⑨ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑩ グローバルな活動につながる教育の推進

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑪ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する
ウ 学校運営協議会等を利用し、地域社会、P T A、同窓会との連携を図る

⑫ 持続可能で信頼される学校づくりの推進

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にす心や態度を育成する。 ③家庭への啓発活動を推進する。	評価指標 ① 人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気が出てきていると生徒が回答した割合 80%以上 ② 主体的に人権の学習ができたとする生徒の割合 80%以上 ③ 生徒に人権意識向上のための指導が適切だと回答した保護者の割合 90%以上			(評定)	
	活動計画 ① ・「人権週間」年3回以上実施する。 ・「人権講演会」など年1回以上実施する。 ・「校内意見発表会」年1回以上実施する。 ・その他、適切な啓発行事を実施する。 ② ・「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施する。 ・「人権職員研修会」年3回実施する。 ③ ・「人権新聞」年3回以上保護者に送付する。	活動計画の実施状況		(所見)	
					学校関係者の意見

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る。	評価指標 ① 生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 70%以上 ② 令和5年度の教育課程を編成する。			(評定)	
	活動計画 ① ・家庭学習時間調査を学習支援クラウドサービスを活用し、毎日実施する。 ・月ごとに学習計画を立てるように習慣づける。 ・生徒1人1台タブレット端末を活用した授業支援・学習支援クラウドサービスの有効利用を推進し、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ②-1 新学習指導要領の趣旨に即した評価方法を確立させる。 ②-2 授業参観や職員研修を通して、評価を授業改善に繋げる取組を行う。	活動計画の実施状況		(所見)	
					学校関係者の意見

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。 ②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。	評価指標 ① 総合的な探究の時間『クエスト』の有用度 80%以上 ② ・東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 130名以上			(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ① 外部講師を招いた総合的な探究の時間『クエスト』を1,2学年で2回以上実施する。 ② ・徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。 ・東京大学金曜講座の生徒への周知を行い、参加を推奨する。 ・進路検討会を第3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・模試分析会を第1,2学年で3回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。	活動計画の実施状況	(所見)		

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。	評価指標 ①-1 服装・頭髪が守れている割合 95%以上 ①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 90%以上 ② いじめを未然に防止するための積極的な取組み (面接・アンケート 2回)			(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回) ①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。 ①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。 ② クラス分析会を定期的に行い、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。	活動計画の実施状況	(所見)		

重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。 ② 部活動を充実させる。	① 生徒会活動が活発である割合 90%以上 ② 部活動の充実度 85%以上		評定	(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。 ② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。	活動計画の実施状況	(所見)		

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る。 ② 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。 ③ 教育相談活動の一層の充実を図る。	① ・「保健だより」の発行回数 12回以上 ・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上 ② ・特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度 90%以上 ③ ・親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上		評定	(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ① ・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。 ② ・特別支援教育に関する職員研修会を1回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 ③ ・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実させる。	活動計画の実施状況 ①	(所見)		

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 ②防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。	評価指標 ① 換気や環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ②-1 防災訓練の実施回数 2回 ②-2 心肺蘇生法の技術を習得する			(評定)	
	活動計画 ① 換気や節電・節水を呼びかけ、定期的に環境委員による校内美化活動を実施する。 ②-1 防災訓練の実施においては、避難経路及び関係教員の役割の確認を行う。 ②-2 教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見	

8 主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。 ②成年年齢の引き下げに伴う消費者トラブルの防止につなげることを目的に、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 ③持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。	評価指標 ①-1 公民科の学習内容に興味・関心の高い生徒の割合 70%以上 ①-2 新聞を読む習慣のない生徒 30%以下 ② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合 80%以上 ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合 80%以上			(評定)	
	活動計画 ①-1 公民科の授業をとおして、選挙制度とその意義について十分に理解を深め、主権者として持つべき意識について理解させる。 ①-2 新聞発表をとおして、社会に関心を持ち、自らの意見を他者に伝える力をつける ②-1 2学年を対象に「成年年齢の引き下げ」に伴う消費者の自立と責任について外部講師による講演を行う。 ③ 「エンカル消費」について学習し、持続可能な社会の実現のための実践力を身につける。	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見	

9 読書活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る。	評価指標 ①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 70%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数(2022.1~2022.12) 5.5冊以上			(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ①-1 ・読書週間やビブリオバトルを1・2学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期に実施する。	活動計画の実施状況		(所見)	

10 グローバルな活動につながる教育の推進育成

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る。	評価指標 ① ・国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 90%以上 ・国際理解・交流イベントへの参加延べ人数 300人以上 ② ・SDGs を達成するための課題研究を行い、成果を研究集録にとりまとめる。			(評定)	学校関係者の意見
	活動計画 ① ・オンライン会議を活用し、海外の生徒や帰国した留学生との交流を15回以上行う。 ・校内での対面による国際理解・交流イベントを5回以上実施する。 ・HPやニュースレター等を活用し、広報に努める。 ② ・生徒の活動について、定期的に学校のHPで発信する。	活動計画の実施状況		(所見)	

11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する。 ③地域社会、PTA、同窓	評価指標 ① 公開授業を実施する。 ② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立つ割合(利用の保護者対象) 85%以上 ③-1 地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校運営協議会の開催回数3回			(評定)	

会との連携を図る。	③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数 2回			
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見
	① ・休日の授業公開日を年2回実施する。 ・中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。 ② ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努める。 ③-1 学校運営協議会を年3回（7月、12月、3月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。			

12 持続可能で信頼される学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	評価指標	①-1 城東高校への満足度 85%以上 ①-2 教員の職務の満足度 90%以上 ② 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 5名以上		(評定)	学校関係者の意見
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①-1 学校教育活動及び部活動の充実 ①-2 業務改善の推進 ② 職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ ・県教委計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。				